

## 探究タイプ”C” ②探究活動（成果物）の概要説明書

フリガナ	カンガク サブロウ
氏名	関学 三郎

## 探究活動タイプ”C”

特定のテーマに関する学術的考察を通じた探究活動

## 1. 探究活動の成果物（提出書類『① 探究活動の成果物』で提出するもの）

種類  ※該当するものを選択

&lt;上記 種類 で『その他』を選択した場合のみ（具体的に記入すること）&gt;

成果物が掲載された媒体（媒体名、発行年、巻・号、掲載ページ、URL等含む）があれば具体的に記入すること

## 2. 探究活動を行った主たる時間

区分  ※該当するものを選択

&lt;上記 区分 で『正課外活動』・『その他』を選択した場合のみ（具体的に記入）&gt;

&lt;上記 区分 で『正課外活動』・『その他』を選択した場合のみ、活動期間（西暦）を記入&gt;

開始  年  月 終了  年  月主たる指導者とその属性  ※該当するものを選択

&lt;上記 属性 で『その他』を選択した場合のみ（具体的（氏名・所属・専門性・経験値等）に記入）&gt;

## 3. 探究活動の人数構成

人数構成  ※該当するものを選択

グループの場合の構成人数

※グループの場合のみ回答

成果物に記載されたあなたの役割  ※該当するものを選択

あなたの役割 について記入してください。※300字以内（半角・スペースも1文字とカウントします）

※記入例なし

## 4. 発表の機会・結果

※それぞれの発表会区分に複数参加している場合は、最も結果の良かったものを選んでその内容を記入してください。

所属校内での発表会			参加有無	参加	学年	高校2年生
			上記「参加有無」・「学年」は該当するものを選択			
参加者数 (聴衆除く)	200	予選有無・ 予選の備考	無	備考		
表彰・順位付け有無		表彰・順位付け "有"の場合の結果				

他校との合同発表会			参加有無	不参加	学年	
			上記「参加有無」・「学年」は該当するものを選択			
参加者数 (聴衆除く)		予選有無・ 予選の備考		備考		
表彰・順位付け有無		表彰・順位付け "有"の場合の結果				

外部機関が主催する大会やコンテスト				参加有無	不参加	学年	
				上記「参加有無」・「学年」は該当するものを選択			
参加者数 (聴衆除く)		規模		予選有無・ 予選の備考	備考		
表彰・順位付け有無		表彰・順位付け "有"の場合の結果					

## 5. 探究活動の目的

この探究活動の目的は、学校教育における「学び」の在り方について考察を深めることである。

## 6. 探究活動のテーマおよびテーマ設定にいたった背景

テーマ 学校教育に求められる学びと実際の高等学校教育での学びの相違

テーマ設定にいたった背景 **※600字以内** (半角・スペースも1文字とカウントします)

私たちは、常日頃から学校で受験勉強を意識した授業を受けている。私たちは受験に向けて模試の点数が上がるよう日々努力している。そして、模試の点数を上げる上で「記憶する力」はとても重要になる。しかし、ある日大学生活をしている兄と食事をしていた私は、兄が高校時代に勉強したことをほとんど記憶していないことに気づいた。そこで、「大学受験のために記憶することは、将来にとって一体何の意味があるのか?」という問いが生まれた。私は日本の教育の特徴について調べた。すると、日本では戦後、受験を中心とした学歴社会が生まれ、知識伝達型の教育方法が積極的に取り入れられるようになってきたことがわかった(ランバス2000)。また、知識伝達型教育は塾を中心とした教育産業のニーズとも合致し、日本に強く根付いていったという(新月 2015)。一方、文部科学省(2019)は「主体的・対話的で深い学び」の重要性を説き、2022年入学の1年生からは知識・技能、思考・判断・表現力、主体的に学習に取り組む態度の観点から評価することが求められるようになった。果たして、18歳人口の半分以上が大学受験をする現代において、知識の記憶を中心とした受験指導と主体的・対話的で深い学びを目指した指導の折衷はあり得るのだろうか。

上記問題意識から、自分の学校で展開されている教育と教育政策が掲げる方向性の比較検討を行った。

## 7. 引用・参考にした文献（研究図書・一般書籍・論文誌（査読有）・論文誌（査読なし）・ウェブ上の公開データ・その他）

【引用文献】 ※探究活動を行った中で重要となる主要な引用文献を5つ選択して記入してください。

5つ全て記入する必要はありませんので、必要数分（最大5つ）だけ記入してください。

1	種類	研究図書	※該当するものを選択	著者・媒体名	ランバス K.G, 関西学院出版
	発行年(西暦)	2000	年	タイトル	日本の教育の変遷
	『① 探究活動の成果物』での言及箇所（●枚目の●段落目 など）			P.1 第3段落目, P.6 第1段落目, P.6 第3段落目	
2	種類	研究図書	※該当するものを選択	著者・媒体名	関学花子, クレセント出版
	発行年(西暦)	2020	年	タイトル	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて
	『① 探究活動の成果物』での言及箇所（●枚目の●段落目 など）			P.7 第5段落目	
3	種類	論文誌（査読有）	※該当するものを選択	著者・媒体名	関学太郎, 日本教育問題研究論文誌16巻5号
	発行年(西暦)	2015	年	タイトル	新自由主義と教育産業の結びつき
	『① 探究活動の成果物』での言及箇所（●枚目の●段落目 など）			P.8 第3段落目	
4	種類	論文誌（査読なし）	※該当するものを選択	著者・媒体名	文部科学省, 高等学校 学習指導要領（平成30年告示）
	発行年(西暦)	2019	年	タイトル	高等学校 学習指導要領（平成30年告示）
	『① 探究活動の成果物』での言及箇所（●枚目の●段落目 など）			P.1 第1段落目	
5	種類	ウェブ上の公開データ	※該当するものを選択	著者・媒体名	プレミアム関学出版, 教育時事データベースプレミアム
	発行年(西暦)	2021	年	タイトル	日本の教育データ最前線～大学受験編～
	『① 探究活動の成果物』での言及箇所（●枚目の●段落目 など）			P.2 第5段落目	

## 7. 引用・参考にした文献（研究図書・一般書籍・論文誌（査読有）・論文誌（査読なし）・ウェブ上の公開データ・その他）

**【参考文献】** ※探究活動を行った中で重要となる主要な参考文献を5つ選択して記入してください。

5つ全て記入する必要はありませんので、必要数分（最大5つ）だけ記入してください。

1	種類	ウェブ上の公開データ	※該当するものを選択	著者・媒体名	国立教育政策研究所, 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
	発行年(西暦)	2021 年	タイトル	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料	
	本探究活動における本文の位置づけ		観点別評価に関する参考資料		
2	種類	論文誌（査読有）	※該当するものを選択	著者・媒体名	上ヶ原ポプラ 日本教育政策論文誌11巻2号
	発行年(西暦)	1990 年	タイトル	「受験を通じた学び」は日常生活に転移するのか	
	本探究活動における本文の位置づけ		受験のために蓄えた知識が受験以外の文脈においてどの程度役に立つのかを知るための参考資料		
3	種類	論文誌（査読有）	※該当するものを選択	著者・媒体名	関学次郎 日本英語教育改善研究論文誌19巻2号
	発行年(西暦)	2020 年	タイトル	日本の英語教育は本当にコミュニケーション型な英語話者を育成してきたのか	
	本探究活動における本文の位置づけ		教育政策と教育現場の実情に乖離があるのかを検討するための参考資料		
4	種類	研究図書	※該当するものを選択	著者・媒体名	関学五郎 関学出版
	発行年(西暦)	2021 年	タイトル	変わる大学入試～思考力を問う入試問題とは～	
	本探究活動における本文の位置づけ		大学受験そのものがどのように変わろうとしているのかを確認するための参考資料		
5	種類	研究図書	※該当するものを選択	著者・媒体名	関学愛子 三日月歓迎出版
	発行年(西暦)	2000 年	タイトル	学ぶという行為の社会性 ～他者や社会との相互作用の中で生じる学び～	
	本探究活動における本文の位置づけ		「主体的・対話的で深い学び」とは具体的にどのような学びなのかを知るための参考資料		

8. 分析・考察結果

※800字以内 (半角・スペースも1文字とカウントします)

※記入例なし

文字数カウント 0

9. 探究活動を通して「学んだこと」

※500字以内 (半角・スペースも1文字とカウントします)

※記入例なし

文字数カウント 0